



NIPPON BEARING

10月15日付 日本経済新聞広告 解答と解説

【問題】 法隆寺五重塔、地震に強いその技術とは？

- ① 硬い構造 ② 建物の中央に心柱がある ③ 粘土のみで作った基礎

【答え】 ② 建物の中央に心柱がある

【解説】

飛鳥時代に建立された法隆寺五重塔。

1300年もの長い間、その美しい姿を私たちに見せてくれています。

地震の多い日本にありながら、倒れることなく立ち続けられる秘密は、どこにあるのでしょうか？

法隆寺五重塔には、地震から塔を守る技術が、数多く使われています。

その技術は現在でもすべて解明できておらず、謎も残っているようですが、いくつかの耐震・免震・制振技術は、高層ビルやタワーの設計・建設の参考にされる程、高度なものです。

中でも、層を積み重ねた構造と、中心部の心柱（しんぼしら）は、特に有名です。

通常、硬い構造の方が頑丈で壊れにくい感じがしますが、実は、五重塔の各層（重）は、ある程度自由に動けるような柔軟な構造をしています。重を積み重ねた造りは、その構造により、地震で揺れても壊れにくいと考えられています。

五重塔には、心柱と言われる柱が、塔の中央を貫いています。

心柱は礎石の上に立ち、塔の頂部まで各重に固定されることなく、独立して立っています。

この心柱は、地震の際に塔の揺れを軽減する効果があると言われてしています。

心柱の下には、お釈迦様の遺骨が納められています。

五重塔は、いわばお釈迦様のお墓。お寺にとって、最も大切なものの1つであると言えます。

いにしえの人々の知恵や工夫は、「大切なものを守りたい」という強い想いによって、発達したのでしょう。

【企画・協力：榊学研メソッド】